

ジョージア政治・経済 主な出来事

【 2017 年 2 月 13 日 ~ 2017 年 2 月 19 日 】

[当地報道をもとに作成]

平成 28 年 2 月 22 日

在ジョージア大使館

1. 外 政

▼外相のアゼルバイジャン訪問(13日)

- ・ ジャネリゼ外相がアゼルバイジャン大統領を訪問し、アゼルバイジャンのアリエフ大統領、アサドフ国会議長、ラシザデ首相、メメディヤロフ外相らと会談。
- ・ 「メ」アゼルバイジャン外相との会談では、二国間の戦略的協力、物流・エネルギー分野などの共同プロジェクト、EU 東方パートナーシップや GUAM、国際機関における協力、地域の安全保障環境などについて議論。「メ」アゼルバイジャン外相は EU との査証自由化に関するジョージアの前進について祝辞を述べた。「ジャ」外相は EU・アゼルバイジャン間の戦略文書に関する作業の開始を歓迎。

▼湾岸協力理事会事務局長のジョージア訪問(14日)

- ・ ザイヤーニー湾岸協力理事会事務局長がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、クヴィリカシヴィリ首相、ジャネリゼ外相らと会談。
- ・ 「ジャ」外相と「ザ」事務局長は、ジョージア外務省と湾岸協力理事会との協議に関する覚書に署名。両者の会談では、アラブ諸国からジョージアへの観光客の増加および投資先としてのジョージアに対するアラブ諸国の関心の高まりが強調された。

▼NATO・ジョージア委員会(15日—16日)

- ・ イゾリア国防相がブリュッセルを訪問。NATO・ジョージア委員会会合に出席。ストルテンベルグ NATO 事務局長はジョージア国防省が進めている改革に対する支持を表明し、ジョージアは NATO・ジョージア実質的パッケージの実施において大きな前進を達成したと述べた。
- ・ ブリュッセルを訪問中、イゾリア国防相はストルテンベルグ NATO 事務局長、ヘンデルマン米国防次官補、ウシュク・トルコ国防相、ベルグマニス・ラトビア国防相、レス・ルーマニア国防相らと会談。

▼EU・ジョージア議会連合委員会(15日—16日)

- ・ ストラスブルールにて第4回 EU・ジョージア議会連合委員会が開催された。ジョージア側からはフロルダヴァ国会欧州統合委員会委員長らが出席。欧州議会とジョージア国会の議員は 3 月中に査証自由化が実現するよう期待するとの共同声明を発表。声明は、EU・ジョージア関係の最終的な目標は連合協定ではなく、ジョージアは民主主義、基本的な自由、人権などの原則を守れば、EU 加盟を申請することができる」と述べている。

▼首相がミュンヘン安全保障会議に出席(17日)

- ・ クヴィリカシヴィリ首相がジャネリゼ外相とともに第 53 回ミュンヘン安全保障会議に出席。ガーニ・アフガニ

スタン大統領、カリュライド・エストニア大統領、ライチャク・スロバキア外相、ペンス米副大統領、グテレス国連事務総長、ユルドゥルム・トルコ首相、モグリーニ EU 外務・安全保障政策上級代表、アブルゲイト・アラブ連盟事務局長、シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長らと会談。

・ 会談で「ペ」米副大統領は、米国的新政権はジョージアとの戦略的パートナー関係を促進する用意があると強調し、世界の安全保障に対するジョージアの貢献に感謝を述べた。

・ グテレス国連事務総長との会談ではジョージアと国連の協力、ジョージアの被占領地域の状況などについて議論。「ク」首相は「グ」国連事務総長の指揮のもと紛争の平和的な解決のプロセスにおいて国連がより積極的な役割を果たすよう期待を述べた。

・ ユルドゥルム・トルコ首相は、ジョージアはトルコの最も重要な隣国であり戦略的パートナーであると述べ、二国間協力の進展を歓迎。

・ 同行したジャネリゼ外相はダンカン英外務・英連邦副大臣、メレスカヌ・ルーマニア外相らと会談。

2. 内 政

▼統一国民運動のデモ(13日)

・ 統一国民運動 (UNM) がトビリシ市庁舎前でメディアの自由の保障と TV 局「ルスタヴィ 2」の所有権をめぐる訴訟に関する公正な裁判を求めるデモを開催。市庁舎への突入を図った 13 名の参加者が警察により拘束された。

・ UNM は、トビリシ控訴裁判所でルスタヴィ 2 の裁判を担当しているナズガイゼ裁判官の兄が 2015 年 6 月の水害の被害に対する補償として 2016 年 12 月にトビリシ市から受け取ったとされる 100 万ラリ相当の土地と補償金を賄賂であったと主張している。

▼高位聖職者の殺害を企てたとされる容疑者の逮捕(13日)

・ ショタゼ検事長は会見を開き、10 日に高位聖職者の殺害を企てた容疑でジョージア正教会のママラゼ首輔祭を逮捕したと発表。「ショ」検事長によれば、容疑者はイリア 2 世総主教が療養中のドイツへの渡航を計画しており、出発まで毒物を入手し、正教会の中核の人物の一人の殺害を企図していた。

・ 16 日、ミュンヘン安全保障会議に出席するため訪独したクヴィリカシヴィリ首相が療養中のイリア 2 世総主教を見舞った。

・ メディアが「マ」首輔祭がイリア 2 世総主教の殺害を

企てていたと報じたことに対し、16日、検察は殺害の対象はイリア2世総主教ではなかったとの声明を発表。

▼野党議員の車の爆破事件の犯人に対する判決(14日)

・10月4日にトビリシ市内で野党のタルガマゼ議員の車が爆破された事件で逮捕されたチャグナヴァ容疑者に対し、トビリシ市裁判所は火器・爆発物の不法所持の罪で4年の禁固刑に代えて6年の執行猶予を言い渡した。検察は執行猶予を不服として控訴する意向。

・「タ」議員の所属する自由のための運動・欧州ジョージア党も容疑者の釈放を批判。

▼国防省による徴兵制の再開(14日)

・国防省は2016年6月にヒダシェリ前国防相が廃止を決定した徴兵制を再開。国防省の声明によれば、新たな徴兵制は以前の制度とは「質的に大きく異なる」ものとなる。徴兵された者は3か月の総合的な戦闘訓練を受けた後、9か月間、戦闘訓練を継続しながら兵役に就く。

▼司法改革法案に対する憲法裁判所の判断(15日)

・憲法裁判所は、大統領の拒否権を覆して2月10日に国会が再承認した司法改革法案について、裁判官の3年間の試験採用期間の制度を違憲と判断。ドリゼ大統領国会担当補佐官は憲法裁判所の判断を歓迎するとコメント。

▼2016年の交通事故件数(17日)

・内務省によれば、2016年の交通事故の件数は6,939件(前年比500件増)、負傷者9951名、死者581人(同21人減)。

▼ルスタヴィ2の裁判をめぐる抗議デモ(19日)

・TV局「ルスタヴィ2」の所有権をめぐる訴訟での公正な裁判を求めて、TV局の呼びかけにより数千人がトビリシ市中心部で抗議デモを実施。統一国民運動、自由のた

めの運動・欧州ジョージア、共和党、新右派党、労働党など野党関係者も多数集まつた。

・同TV局は17日夜から19日昼まで放送を停止し抗議の意を示していた。

・グヴァラミア同局社長はメディアに介入しているとしてイヴァニシヴィリ前首相を非難。ウドウマシヴィリ副社長はデモの参加者に「ルスタヴィ2が屈すれば、国民の問題を報じる場がなくなる」と訴えた。

3. 経済

▼経済自由度ランキング(13日)

・米ヘリテージ財団が発表した2017年の経済自由度ランキングで、ジョージアは世界の186か国・地域中第13位。経済が「ほぼ自由な」国のグループに分類された。欧州地域ではスイス、エストニア、アイルランド、英国に次いで第5位。

・同財団によれば、ジョージアの公的債務・経常赤字は「コントロール下に」あり、汚職対策が成果を挙げている。また、「税率の低さと規制の効率性を伴った市場開放政策が貿易・投資の流れを促進している」。

▼アゼルバイジャン・ジョージア・トルコ3か国ビジネスフォーラム(17日)

・イスタンブールにてアゼルバイジャン、ジョージア、トルコの3か国のビジネスフォーラムが開催され、ガハリア経済・持続的発展相が参加。「ガ」経済・持続的発展相はオズル・トルコ科学・技術・産業相、ムスタファエフ・アゼルバイジャン経済発展相らと会談。会談では地域的な経済協力の強化について話し合われた。「ム」アゼルバイジャン経済発展相との会談では観光分野での協力に焦点が置かれた。